



1970年12月20日「コザ暴動」の模様
那覇地裁は松永君への判決17日の4名への判決などとして人民に敵対し有罪を判決してきている!

この委員会の訴えは、労働者階級人民が、武装して闘い、革命運動を前進させ、ブルジョア独裁の打倒とプロレタリア独裁の樹立を最も目的意識的に遂行すべき課題としておし出している。日本支配階級は、石油問題をはじめとする資源問題に直面し、海産物資源をめぐって海洋資源開発をめぐり、一方では漁場と漁民の生活を破壊するということを行いながら、他方では独占資本の利益のために膨大な投資を行い、その一環として「海洋博」を画策してきた。また公害問題の重大化から、沖縄をはじめ、重工業地帯から離れた石油基地などを建設し、公害をおしつけ、住民の生活と生命を破壊する策動を行っている。こうした策動は、資本家階級の支配と資本主義の本質に根ざすものであり、一部の改良による根本的に解決することはとうていできない。

労働者階級と闘う人民は、海洋博開催と皇太子訪沖に對して断固として対決し、革命運動の結果として、人民の側の階級を圧倒的に強化しなければならぬ。改良主義と排外主義はブルジョア階級のための分裂の道であり、闘争を決定的に弱め、腐敗をまね延ばせるだけである。この委員会の訴えは、労働者階級人民が、武装して闘い、革命運動を前進させ、ブルジョア独裁の打倒とプロレタリア独裁の樹立を最も目的意識的に遂行すべき課題としておし出している。日本支配階級は、石油問題をはじめとする資源問題に直面し、海産物資源をめぐって海洋資源開発をめぐり、一方では漁場と漁民の生活を破壊するということを行いながら、他方では独占資本の利益のために膨大な投資を行い、その一環として「海洋博」を画策してきた。また公害問題の重大化から、沖縄をはじめ、重工業地帯から離れた石油基地などを建設し、公害をおしつけ、住民の生活と生命を破壊する策動を行っている。こうした策動は、資本家階級の支配と資本主義の本質に根ざすものであり、一部の改良による根本的に解決することはとうていできない。

二十日から来年一月にかけて行おうとしている。まず、日帝総体としての資源問題と、それを利潤獲得のために最大限利用しようとする「海洋産業」の策動である。日帝は、帝国主義としての自らの性格のために資源問題を人民との矛盾の後進国との矛盾を深める中で「打開」できず、そうした矛盾を転化するものとして海洋博を労働者人民から収奪した税金をつぎこんで行い、独占資本の利益をもうけた国家資金の投入によって保証しようとするのである。第二に、沖縄の地域開発と総して、沖縄を「全国総合開発」の一環にまきこみ、そのための行政機構を整備し、いわゆる社会資本の「整備」を行い、それをもつて「本土」独占資本の活動の基盤を整備しようとするのである。第三に、沖縄における独占資本の他の土地買占め、観光資本の暗躍はすでに度々明らかになってきている。また「本土」独占資本の流入による失業の大発生、労働者人民の沖縄の外への叩き出し、零細企業の倒産、破壊が明らかになってきている。「海洋博」をもつて、こうした攻撃を一層おしすすめようとするのが、日本資本家階級の策謀なのである。第二に、沖縄人民の闘いがその一方において生みだしている

動、開発歓迎の態度を糾弾しつつ、大衆的な実力闘争をもって頑強に闘われてきている。このCTS反対闘争を軸として、沖縄人民は、「本土」独占の金のバラまき(実は収奪)による「開発」なるものが、これまでの支配階級による収奪、抑圧政策を踏み台にした新たな収奪、抑圧と搾取の策動に他ならないことを労働者人民の生活と生命の破壊でしかないと見抜きつつある。社会党沖縄本部の新聞書記長です。五、一五復帰協会の「七、一七」年沖浦返還は沖縄処分であった。「その本質は、日米両国支配階級の共同の利益となる、日米安保体制の強化」であるとの主旨の発言をせざるをえなくなっている。まさに「七、一七」年沖浦返還が何ら沖縄労働者人民の利益に沿ったものではなく、支配階級間の「支配権の移譲」以外ではありえないことが肌で感じられるようになってきているのである。そして、沖縄における日米共同の反革命拠点としての強化の実態も次々と明らかにされている。

最も象徴的なのは「マヤグス号事件」に対する米海兵隊の直接緊急出動が行われたことである。この事件はまさに、米軍基地が軍事任務の発生次第、何のちゅうちゅうもなく直ちに投入されるという事態を公然と明らかにし、沖縄基地が反革命の直接戦闘に日常断続的に使用されているという事実を明白にした。しかしそればかりではない。この間の米兵暴行事件に明らかになように、日本政府、米政府は沖縄人民に対して自ら行い、また行わせたのである。

こうした過程は、沖縄の労働者、人民にとってはまた「本土」の二・五・一四倍と言われる失業と沖縄からの叩き出し、農民の土地喪失、漁場の破壊、琉球文化と風俗のブルジョアの劣化と「本土」のブルジョアの劣化の流入等々の過程であった労働者階級、人民は、こうした策動の真の担い手である日本資本家階級と、その手先である「本土」官僚、自衛隊との闘いまた労働官僚との闘いを決定的に強め、またそれと結託し人民に敵対する米軍との闘いを強め、ブルジョア支配の打倒をなし遂げなければならない。労働者人民は、「沖浦返還粉砕」の主張をもつて革命闘争の方向であるかのように言う部分や、「五、一五体制粉砕」をもつて同様主張する部分があるが、革命運動を、何かしらスローガンの発展過程、認識の発展過程のようにのみ考え、一貫した革命運動の堅持と諸階級のそれへの結合という構造的展開、そしてそのための革命的役割を演ずる必要とするようにならなければならない。六月二十日、米国防長官シュレジンジャーは、南朝鮮への戦術核兵器の配備を公式に確認し「もし状況が戦術核兵器の使用を必要とするようにならなければ、使用するというような喝を行った。これに関連して、南朝鮮の核弾頭配備数は百発前後ということが明らかにされている。また、朴が独自に核兵器の開発を行う可能性も米国の報道によって示唆され、現実として裏付けるものとしてカナダからの原子炉導入交渉が本格化している。

これらの発言は、「戦時体制」への人民の動員によって危機をのりきろうとする朴一派の反人民の攻撃と呼ぶべきものであり、労働者人民の闘争を核とどう喝によって押さえこもうとするものに他ならない。現在日帝は米帝と「有事の際の軍事協定体制」を作り上げるための活動を急進に強めている。また、米帝は、マリアナ群島の略奪、併合を住民投票の形で決定させ、グアムを中心とする戦略基地の再編、強化をおし進めている。これらの策動は、アジア、極東地域での、日帝、米帝結託した反革命策動の強化、前進する労働者、人民の闘いに対する公然たる敵対宣言である。

海洋博・訪沖阻止 闘争の意義
皇太子訪沖と海洋博粉砕へ向けた闘争が急遽に盛り上げられている。七月十七日皇太子の訪沖に對決し、海洋博に對する闘争は一方における、日共をはじめとする改良主義潮流の皇太子訪沖と對決し、海洋博の基本的支持という中で、他方における、沖縄人民の日本独占資本、政府に對する怒りの尖鋭化という状況の中で闘われる。排外主義と改良主義に對決し、日本帝国主義の沖

總支配権の獲得とそれによる一層の沖縄人民の抑圧と侵略、反革命運動の強化に對決し、革命運動の圧倒的前進を勝ちとっていくなければならない。皇太子訪沖阻止、海洋博粉砕の闘争は、この間の沖縄労働者人民、「本土」労働者人民の闘いをうけて、先進的な意義をもつて闘われる。それはまず、国際主義的な闘争として、日本帝国主義が「七、一七」年沖浦返還にかけた野望に對決し、軍事基地を反人民、反革命のために固めたりまた沖縄人民への搾取、収奪を強力

におし進めるのと同様、後進国人民への搾取、収奪、経済侵略をすすめるにつれて日帝への断固たる糾弾として闘われる。第一に、皇太子訪沖にみられるような、現在の階級闘争の一定の激化に對した労働者人民の反動的ナショナリズムへの統合策動、とりわけ、沖縄人民の「本土」官僚、自衛隊、皇族への怒りを「日本」ナショナリズムへの統合として包摂して、こうとする攻撃に對して、支配階級の策謀を暴露し、皇太子訪沖の反人民性、皇族そのものの反人民性を暴露し、闘いに決起するものとしてある。

こうした闘いは、日帝の侵略反革命策動に断固として對決し、沖縄人民への支配、抑圧、搾取、収奪を糾弾し、排外主義、改良主義潮流のうち勝つ革命的、国際主義的闘いを強め、同時に、「沖浦返還」への意味付与にあけられていく経済主義的潮流を粉砕してゆく闘いとしての意義をもつて闘う。わが共産党は、皇太子訪沖、十月天皇訪米阻止の闘いにおいて、天皇制反對の立場を明確にし、立憲的象徴天皇制を廃止し、プロレタリア独裁の社会主義共産主義の樹立を最も目的意識的に遂行すべき課題としておし出している。

日本支配階級は、石油問題をはじめとする資源問題に直面し、海産物資源をめぐって海洋資源開発をめぐり、一方では漁場と漁民の生活を破壊するということを行いながら、他方では独占資本の利益のために膨大な投資を行い、その一環として「海洋博」を画策してきた。また公害問題の重大化から、沖縄をはじめ、重工業地帯から離れた石油基地などを建設し、公害をおしつけ、住民の生活と生命を破壊する策動を行っている。こうした策動は、資本家階級の支配と資本主義の本質に根ざすものであり、一部の改良による根本的に解決することはとうていできない。

社、共々社大の潮流、そして屋敷政に示される改良派の運動を「地域開発」の利益という圧力によって解体し、彼らが「復帰運動」において持っている一定の戦闘性をつき崩し、と最大限利用しようとする「海洋産業」の策動である。日帝は、帝国主義としての自らの性格のために資源問題を人民との矛盾の後進国との矛盾を深める中で「打開」できず、そうした矛盾を転化するものとして海洋博を労働者人民から収奪した税金をつぎこんで行い、独占資本の利益をもうけた国家資金の投入によって保証しようとするのである。第二に、沖縄の地域開発と総して、沖縄を「全国総合開発」の一環にまきこみ、そのための行政機構を整備し、いわゆる社会資本の「整備」を行い、それをもつて「本土」独占資本の活動の基盤を整備しようとするのである。第三に、沖縄における独占資本の他の土地買占め、観光資本の暗躍はすでに度々明らかになってきている。また「本土」独占資本の流入による失業の大発生、労働者人民の沖縄の外への叩き出し、零細企業の倒産、破壊が明らかになってきている。「海洋博」をもつて、こうした攻撃を一層おしすすめようとするのが、日本資本家階級の策謀なのである。第二に、沖縄人民の闘いがその一方において生みだしている

革命運動強化が カナメである
「七、一七」年沖浦返還は、米軍による特殊な間接統治、日本支配階級による直接統治、中央集権的支配への組み込みの決定であった。沖縄人民は、多くがこの「返還」を民族支配からの解放として歓迎したが、その「返還」の内容は、軍隊による専制的支配からブルジョアの中央集権的支配の一環への転換、そして、同時に「伝統的」にある沖縄人民への「本土」からする差別の現実的強化であり、とりわけ「本土」の「抑圧的支配」の下への「抑圧的支配」の強化である。沖縄のあらゆる階級の隷屬および、とりわけ労働者、貧農の低賃労働力、下層労働者としての編成がえであった。「返還」において、日本政府は、沖縄人民に不利な「通貨交換」を行い、さらに急激な(今日「本土」の二倍と言われる)インフレを放置し、また「本土」の「抑圧的支配」の強化を横行させて、企業の本土系列化と、土地の独占および政府による占有を続出させ、この三年を通じてきわめて大規模な収奪を沖縄人民に対して自ら行い、また行わせたのである。

六月二十日、米国防長官シュレジンジャーは、南朝鮮への戦術核兵器の配備を公式に確認し「もし状況が戦術核兵器の使用を必要とするようにならなければ、使用するというような喝を行った。これに関連して、南朝鮮の核弾頭配備数は百発前後ということが明らかにされている。また、朴が独自に核兵器の開発を行う可能性も米国の報道によって示唆され、現実として裏付けるものとしてカナダからの原子炉導入交渉が本格化している。

これらの発言は、「戦時体制」への人民の動員によって危機をのりきろうとする朴一派の反人民の攻撃と呼ぶべきものであり、労働者人民の闘争を核とどう喝によって押さえこもうとするものに他ならない。現在日帝は米帝と「有事の際の軍事協定体制」を作り上げるための活動を急進に強めている。また、米帝は、マリアナ群島の略奪、併合を住民投票の形で決定させ、グアムを中心とする戦略基地の再編、強化をおし進めている。これらの策動は、アジア、極東地域での、日帝、米帝結託した反革命策動の強化、前進する労働者、人民の闘いに対する公然たる敵対宣言である。

怒 涛

海洋博開催・皇太子訪沖糾弾！
政府・支配階級に對決し決起せよ！

プロレタリア世界革命の旗の下
万国の労働者団結せよ！
労働者共産主義委員会

訂正
▼前号、一面、署名論文の下から三段目は、左から八、四行目と、左から三、一、二行目が入りかかっています。

集会・闘争短報
▼東峰九一六公約闘争 七月三日
▼皇太子訪沖・海洋博粉砕闘争 七月十六日(一〇日)

支援センターニュース
パレスチナ人民支援センター
第6号発売中!!
内容・エリトリア革命ほか
連絡先/東京田園調布局私書箱16号

北富士闘争
8号以降2年間の闘いをまとめる
9号★発売中 300円
発行/北富士闘争連絡会
怒涛社でも取り扱います

共産主義革命
日本革命運動の現状を止揚し、プロレタリア革命の勝利の方向を明示する!
第5号 好評発売中!
450円
申込みは怒涛社へ

労共委中央理論誌
共産主義革命
日本革命運動の現状を止揚し、プロレタリア革命の勝利の方向を明示する!
第5号 好評発売中!
450円
申込みは怒涛社へ

七五「春闘」がほぼ終了した五月二八日、総評は第八回評議員会での市川議長「政府、資本の結束と雇用不安などで官民一体の闘争を集中すべき、一五%ガイドラインを打ち破れないまま取捨をえなかつた」となるあいさつを通じて「春闘敗北を認めることとなった」今「春闘」は昨秋来の政府、資本階級による「不況とインフレ」「低成長時代への移行」「インフレ、企業倒産が賃金抑制制」などのかけ声のもとに賃上げ率を一五%以下におさえたための策動がくりひろげられてきた。総評を中心とする春闘共闘委はこれに対して、全国全産業一律最低賃金制度の確立、大巾賃上げなどを柱にして賃上げ率二〇%、四万円以上の獲得を今春闘の課題として打ち出した。共闘委はこの課題実現のために三月下旬、全国全産業一律最賃制、公務員のスウェーデンを要求して統一ストをおこない、戦闘的闘争機運を盛りあげ、政府資本階級の「一五%ガイドライン」を打破する方針を打ち出した。

「春闘」はほぼ終了した五月二八日、総評は第八回評議員会での市川議長「政府、資本の結束と雇用不安などで官民一体の闘争を集中すべき、一五%ガイドラインを打ち破れないまま取捨をえなかつた」となるあいさつを通じて「春闘敗北を認めることとなった」今「春闘」は昨秋来の政府、資本階級による「不況とインフレ」「低成長時代への移行」「インフレ、企業倒産が賃金抑制制」などのかけ声のもとに賃上げ率を一五%以下におさえたための策動がくりひろげられてきた。総評を中心とする春闘共闘委はこれに対して、全国全産業一律最低賃金制度の確立、大巾賃上げなどを柱にして賃上げ率二〇%、四万円以上の獲得を今春闘の課題として打ち出した。共闘委はこの課題実現のために三月下旬、全国全産業一律最賃制、公務員のスウェーデンを要求して統一ストをおこない、戦闘的闘争機運を盛りあげ、政府資本階級の「一五%ガイドライン」を打破する方針を打ち出した。

①うやむやにされた最賃制などの課題

春闘共闘委の今「春闘」における最重要の課題の一つに全国全産業一律最低賃金制度の確立があった。共闘委はこの課題を「賃金の最低基準を制度化し、未組織、中小企業労働者をめぐる労働者の団結拡大、低生活層の生活ミニマム形成に波及させる」と称して、未組織、中小企業労働者との団結を強化するかのような主張をおこなった。わが共闘委は共闘委の方向に対して「こうした最賃制を、とにかく「制度化」することと労働者の経済闘争の支えに必要とする」とはできない。労働者による消費需要の喚起」が必要だなどと組合員の賃上げ要求を協調的な主張にいける。二七%の賃上げ率を要求し「賃金自制」を強調し、労資協調路線を宣伝してきた。

②賃闘も闘わぬ労資協調主義組合

「政府、財界の外圧のなかで日経連の低額路線に封じ込めようとするもので、断じて容認する」との要因が、第一に公務員ストの権限にわたって「春闘」の処分が遅れば有利になるといふ判断の下に、日経連の「あえて年度末に予定していた昨年春闘の処分を保留する」と言いつつ「二七%」の賃上げ率を「第一に統一地方選を前にしてストを回避する判断がはたらいた」といわれている。これは、労働者階級の利害がそのまま露呈し、未組織、中小企業労働者や低生活層の利害は毛ほどの重要さも示さないものになっていた。

七五春闘が示した諸問題

総括の方向をめぐって

「政府、財界の外圧のなかで日経連の低額路線に封じ込めようとするもので、断じて容認する」との要因が、第一に公務員ストの権限にわたって「春闘」の処分が遅れば有利になるといふ判断の下に、日経連の「あえて年度末に予定していた昨年春闘の処分を保留する」と言いつつ「二七%」の賃上げ率を「第一に統一地方選を前にしてストを回避する判断がはたらいた」といわれている。これは、労働者階級の利害がそのまま露呈し、未組織、中小企業労働者や低生活層の利害は毛ほどの重要さも示さないものになっていた。

「統一」地方選で示されたエネルギーを七五春闘に連動、波及させ、政府、資本一体となったガイドライン突破のための総力をあけて春闘中盤以後のたたかいにだれだれも「ものとして、統一地方選を重視し、選挙対策上からも勢力温存の立場からも二七%ストを回避、四・一五%を戦術ダウン、ついで中止の方向に走った」と言われている。共闘委に参加する労組の多くは社会党員によって幹部が占められており、これが社会党の選挙対策であることは明らかである。しかし今「春闘」においては鉄鋼、造船重機、電機など民間大企業は四月中旬に賃上げ交渉がおつまつており、一つのヤマを形成していた。春闘共闘委はここに官民一体のストを予定したが、四月段階で官民一体の

「統一」地方選で示されたエネルギーを七五春闘に連動、波及させ、政府、資本一体となったガイドライン突破のための総力をあけて春闘中盤以後のたたかいにだれだれも「ものとして、統一地方選を重視し、選挙対策上からも勢力温存の立場からも二七%ストを回避、四・一五%を戦術ダウン、ついで中止の方向に走った」と言われている。共闘委に参加する労組の多くは社会党員によって幹部が占められており、これが社会党の選挙対策であることは明らかである。しかし今「春闘」においては鉄鋼、造船重機、電機など民間大企業は四月中旬に賃上げ交渉がおつまつており、一つのヤマを形成していた。春闘共闘委はここに官民一体のストを予定したが、四月段階で官民一体の

④「春闘」の戦術的手直し論について

七五「春闘」の総括がかわつて合化労連太田委員長によって「春闘方式の終焉」が主張されている。太田は自ら指導した「春闘」に対して、本格的なストライキの力で資本から大巾賃上げをたたいたというよりも、経済成長下の若労働者の経済的不足という状況のなかで、セモノー的な「一日か二日の官民あわせのストライキを組織し、全産業の生活層をなにかまかなえる程度の賃上げをおさまつてきた」と語り、「相対的に二ヶ月の総評臨時大会、市川総評議長は、二日か三日のストを、官民あわせのストと上り、日経連の「一五%のガイドラインを破ろう」として総評幹部が「不況とインフレがいつしよに

動している。春闘共闘委の社会党員がこうして今春闘を低調なものとして終らせたのは、彼らが大衆的闘争を進展させることをおこたり、選挙活動に従属させているからであり、その結果、改良課題も中途半端にさせているのである。労働者の戦術的団結の強化によってしか労働者の労働条件、生活条件の改善もありえないことが、教訓としてひき出されなければならない。

格を深めている失業問題また下層労働者の持続的な闘いを全体として結合していく方向が共産主義者の政治活動としては一層たいと考えらる。

怒涛の定期講読を!!

夏期一時金カンパを!!
労働者共産主義委員会
労働者、人民の皆さん
今や、インドシナ三国人民の革命戦争の勝利によって、抑圧され、搾取された労働者人民の革命闘争、搾取者から支配を奪い取る闘争の、歴史的必然性が、一層明らかになった。資本階級は、その無政府の経済的混乱が、あたかも自然法則であり、不可避なものであるかのように粧つてはいるが、この経済危機も、その労働者人民への転嫁もまさに、ブルジョア階級の支配によって作り出され、維持されているのだ。労働者階級と闘う人民は、資本主義経済の下で、自分が経済的、政治的に支配され、肉体的、精神的に疲れ果て、首切りによって路頭に放り出される状態にそう長々甘んじていることはできない。

③統一地方選挙重視による春闘の不発

「統一」地方選で示されたエネルギーを七五春闘に連動、波及させ、政府、資本一体となったガイドライン突破のための総力をあけて春闘中盤以後のたたかいにだれだれも「ものとして、統一地方選を重視し、選挙対策上からも勢力温存の立場からも二七%ストを回避、四・一五%を戦術ダウン、ついで中止の方向に走った」と言われている。共闘委に参加する労組の多くは社会党員によって幹部が占められており、これが社会党の選挙対策であることは明らかである。しかし今「春闘」においては鉄鋼、造船重機、電機など民間大企業は四月中旬に賃上げ交渉がおつまつており、一つのヤマを形成していた。春闘共闘委はここに官民一体のストを予定したが、四月段階で官民一体の

「統一」地方選で示されたエネルギーを七五春闘に連動、波及させ、政府、資本一体となったガイドライン突破のための総力をあけて春闘中盤以後のたたかいにだれだれも「ものとして、統一地方選を重視し、選挙対策上からも勢力温存の立場からも二七%ストを回避、四・一五%を戦術ダウン、ついで中止の方向に走った」と言われている。共闘委に参加する労組の多くは社会党員によって幹部が占められており、これが社会党の選挙対策であることは明らかである。しかし今「春闘」においては鉄鋼、造船重機、電機など民間大企業は四月中旬に賃上げ交渉がおつまつており、一つのヤマを形成していた。春闘共闘委はここに官民一体のストを予定したが、四月段階で官民一体の

「統一」地方選で示されたエネルギーを七五春闘に連動、波及させ、政府、資本一体となったガイドライン突破のための総力をあけて春闘中盤以後のたたかいにだれだれも「ものとして、統一地方選を重視し、選挙対策上からも勢力温存の立場からも二七%ストを回避、四・一五%を戦術ダウン、ついで中止の方向に走った」と言われている。共闘委に参加する労組の多くは社会党員によって幹部が占められており、これが社会党の選挙対策であることは明らかである。しかし今「春闘」においては鉄鋼、造船重機、電機など民間大企業は四月中旬に賃上げ交渉がおつまつており、一つのヤマを形成していた。春闘共闘委はここに官民一体のストを予定したが、四月段階で官民一体の

「統一」地方選で示されたエネルギーを七五春闘に連動、波及させ、政府、資本一体となったガイドライン突破のための総力をあけて春闘中盤以後のたたかいにだれだれも「ものとして、統一地方選を重視し、選挙対策上からも勢力温存の立場からも二七%ストを回避、四・一五%を戦術ダウン、ついで中止の方向に走った」と言われている。共闘委に参加する労組の多くは社会党員によって幹部が占められており、これが社会党の選挙対策であることは明らかである。しかし今「春闘」においては鉄鋼、造船重機、電機など民間大企業は四月中旬に賃上げ交渉がおつまつており、一つのヤマを形成していた。春闘共闘委はここに官民一体のストを予定したが、四月段階で官民一体の

